

Olympic
Movement

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 太田市立木崎中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会

平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成31年1月23日（水）

■ク ラ ス：2年A組（31名）

■オリンピアン：田中 めぐみ 先生（陸上競技）【出場オリンピック／シドニー大会、アテネ大会】

■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を意識しながら授業に取り組んでほしいと伝えた。
- ・準備体操として、ストレッチと走るためのポイントやコツを実践した後、タッチ鬼を全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・障害物リレーを6班対抗で全3回実施。①走る姿勢、②呼吸が楽にできるように胸を開くこと、③腕の振り方、この3つを意識してほしいと伝えた。
- ・各班早くゴールするための作戦として、「大股で真っ直ぐ、最短距離を走る」「腕振りに気を付けながら走る」等の意見が挙がった。

4. まとめ



- ・3つのオリンピックバリューを意識して取り組めたこと、自然と「頑張れ」「いいよ、いいよ」等と仲間に声をかけていたことが素晴らしいと称えた。
- ・運動の時間にどのような話し合いを行い、どのような作戦を立てたのか等を忘れずに座学の時間の準備をしてほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・「オリンピックにはどのようなイメージがあるか」と生徒に尋ね、「色々な種目で優勝を争う」「憧れ」等の意見が挙がる。競技中の写真を見せ、現役時に使用していた靴を披露。
- ・オリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、努力する」、「フレンドシップ＝友情、信頼する」、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、どのような工夫をしたかオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：諦めずに最後まで頑張った、皆で励ましあって話し合ったことを行動し良い結果を出せた、ベストを尽くした(エクセレンス)、仲間を信じ合った、仲間を助けた、仲間を鼓舞した、意見を出し合った(フレンドシップ)、お互いに褒め合えた、応援し合えた(リスペクト)

4. まとめ



- ・運動の時間を振り返ると、上手くいかなかった時も仲間を励ましたり声を掛け合うことができていた。それこそがオリンピックバリューの体現であり、日常生活でもオリンピックバリューを意識することで、人生をより良い方向に変えていくことができる。夢や目標の実現に向けて、今の自分にできることから挑戦してほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成31年1月23日（水）

■ク ラ ス：2年B組（31名）、2年C組（30名）

■オリンピアン：荻原 健司 先生（スキー／ノルディック複合）【出場オリンピック／アルペシル大会、リレハンメル大会、長野大会、ソルトレークシティー大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、オリンピックバリューについて、「エクセレンス＝全力で真剣にチャレンジする、ベストを出し切る」「フレンドシップ＝チームワークを発揮し、協力・団結して取り組む」「リスペクト＝尊敬、ルールを尊重する、フェアプレー精神、スポーツマンシップ」と説明し、この3つを意識して授業に取り組んでほしいと伝えた後、準備体操として、ストレッチやランニングなどを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・そりリレーを実施。（B組は全2回、C組は全3回）
・スタート前に「脚力だけで引っ張ろうとせず、腰に体重をかけて脚を動かすイメージのほうが良い」「紐がたるんだ状態から急にスタートすると後ろの人が転んでしまうため、紐が張った状態から、後ろの人への思いやりを持ってスタートすること」等の注意点やアドバイスを伝えた。

4. まとめ



・皆がベストを尽くし、真剣に、協力し合い、説明をよく聞き、ルールを守って取り組んでくれたと生徒を称えた。
授業の冒頭で紹介した3つのオリンピックバリュー（オリンピズム）はオリンピアンだけでなく皆が持ち、感じられるものだとなし、座学の時間に引き続きこれらを学んでいくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックとは何かを一緒に考えていきたいと授業の目的を確認。オリンピックについてどのようなイメージを持っているかを問い掛け、「世界中の人が集まる」等の意見が挙がる。
- ・荻原先生が用意したパワーポイント等を使用しながら授業を進める。オリンピックの問題に答えながらオリンピックについて考えてみようとする。
- ・各班にシートと10色ペンを配布し、オリンピックシンボルマークを描くことからスタート。

2. オリンピックの価値を伝える



3. オリンピッククイズ



- ・オリンピックについてのクイズを通し、クーベルタンがなぜ近代オリンピックを開催したのかを説明。
- ・オリンピズムはエクセレンス(卓越、ベストを尽くす、全力で取り組む)、フレンドシップ(友情、友達をつくる、仲間を大切にする)、リスペクト(敬意/尊重、ルールを守る)の3つのオリンピックバリューと結びついており、このオリンピックバリューを世界中の人と共有するというクーベルタンの願いと共に、世界平和を目指して始まったのが近代オリンピックであり、オリンピックバリューは選手だけでなく、誰もが持てる精神であると話す。

4. まとめ



- ・選手時代は思うように成績が伸びない時もあったが1つ1つ目標を乗り越える中でオリンピックへの道が開けた。スポーツだけでなく、音楽や芸術等、1つの分野で秀でたいと思うなら、誰よりも練習し、鍛錬を積むことが一番重要であると話す。そして座右の銘「本気は本物か」を紹介し、苦しい時こそ、この言葉を思い出し、目標を実現するために本気で取り組んだかを自分に問い掛けるようにしていた。皆も自分の目標を見失わないために、自分に喝を入れる言葉や行動、習慣を持ってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年A組



2年B組



■ 集合写真
2年C組



■ 記念品贈呈
2年A組



2年B組



2年C組



■ 修了証贈呈

